

## 7.お知らせ

### 名簿の管理について

住所・お名前・勤務先等の変更は、『助産師』巻末の変更届けにより、本部と支部にお届け下さい



支部の届け先	
書記長	田村 雪子
	983-0815
	仙台市宮城野区榴ヶ岡5番地
	みやぎNPOプラザ内
	みやぎ子育て・女性健康支援センター内
FAX	022-297-1551
電話	090-2982-7235

### 会費の納入について

支部の会費は、役員がすべてボランティアで行っております。会費の省略化のため、是非銀行振替手続きをして頂けます様、よろしくお祈いします。

平成19年度日本助産師会宮城県支部総会の委任状とともに、宮城県支部名簿の公開についてのアンケート用紙を同封しました。是非ご回答下さい。結果は、支部総会、そして、役員会で検討後、ご報告します。

開業部会では、平成19年度版開業助産師マップを作成しました。同封しております。今後ともご支援下さい。

## 編集後記

「私、ボランティアをしている場合じゃないの」この頃よくボヤしてしまう言葉である。

私学に通う息子の授業料の割賦がそろそろ届く。公立であるが、遠くの高校に通う娘の交通費とプリクラ代(?)が、やけに高い。夫だけの給料では無理。とは言うものの専門学校の非常勤講師の給与はたかが知れている。

そこで、諸先輩方に向かってみた。「みんなそうだよ」「金はかかってあたりまえ」「借金して学校に入れた」「奨学金もらったよ」「バイトしていたよ」そうか、皆こうやって子どもを社会に出していたのですね。今更ながら親のありがたさを感じるこの頃です。

と、私的なことを愚痴ったが、今、当方が危惧していることをひとつ。医療法の改正で、開業助産師と嘱託医の連携が平成20年から事務付けられる。このことが、開業助産師の後退につながってはいけなと、切に願っている。戦後、安全なお産という名目(実際は助産師が関わっていたお産は安全であった。大林道子著:「戦後の助産師たち」より)で、家庭分娩が急激に病院に移行した。そして、また、この法改正が助産師にとっての第2の戦後になってはいけな。そのために、今、しなければならないことを、早急に助産師全体で見定め、行動に移るべきであろう。

追記 インク・紙代は助産師会からの支出ですが、労力と時間はボランティアで行っております。誤字・脱字はご容赦下さい。また、ご協力頂ける方を募集しています。



発行 社団法人日本助産師会宮城県支部  
〒985-0822 宮城県七ヶ浜町汐見台南1丁目1-5  
支部長 新田 双葉  
Tel&Fax 022-357-6562  
支部便り担当 田村 雪子 松田美由紀  
機関紙に関する問い合わせや投稿は、090-2982-7235  
田村 雪子まで、お願いします。



社団法人 日本助産師会

宮城県支部だより

第15号

平成19年3月吉日発行  
発行 社団法人日本助産師会宮城県支部  
〒985-0822  
宮城県七ヶ浜町汐見台南1丁目1-5

## 目次

1. ご挨拶 新田みつ子副支部長
  2. 斎藤つみみ氏瑞宝単光章受賞のお慶び
  3. 平成18年度社団法人日本助産師会宮城県支部理事会報告
  4. 産婆時代の助産師たち Part4 佐藤 貞子氏
  5. 新企画 こんにちは! 助産院 加藤 道子氏
  6. 特別寄稿  
“仙台市育児専門指導員”としての育児支援について  
加藤 由美氏
  7. お知らせ
- 編集後記

お待ちしております。



### 平成19年度社団法人日本助産師会宮城県支部総会のご案内

期 日 : 平成19年4月22日(日)

10:00~15:00

基調講演 10:00 から

「助産師だからできる すてきなお産」

講師 山本 詩子先生

ご都合の悪い方の委任状は同封しております。  
ご提出の程よろしくお祈いします。

## 1. ご挨拶

新田みつ子副支部長

陽春の候、会員の皆様には、お健やかにお励みのこととお喜び申し上げます。  
2月3日(土)本部主催の、各支部教育担当者研修説明会に出席してまいりました。  
近藤会長より、助産師の声明について講演があり、あらためて助産師ひとりひとりが専門職業人として自覚しなければならないことを痛感しました。

助産師の声明は、2006年8.1.Vol.60 No.3 日本助産師会機関紙『助産師』に記載してあるので、助産師の定義・助産師の倫理(生命の尊重・自然性の尊重・智の尊重)・助産師の倫理要領(1~11)熟読しご理解頂きたいと思っております。

また、今、課題になっている事項

- 1) 薬事法49条改正
- 2) 医療法一部改正
- 3) 保健師助産師看護師法一部改正
- 4) 母子保健手帳の様式の改正

厚生労働省雇用均等化・児童家庭局母子保健課長通達  
「母子保健手帳の様式の改正について」  
を、ピンクの用紙に印刷して、同封しましたので、必読して下さい。

- 5) 離乳・授乳支援ガイド

アンテナを高くし情報はいち早くキャッチし日常業務に生かして頂ければ幸いです。助産師にとって追い風が吹いています。このチャンスを逃がさず社会から認められる存在になりつづけられるように、助産師たちが一丸となり、母子保健事業の推進、また社会活動に貢献しましょう。

皆様の益々のご健勝とご活躍を願い、ご挨拶とします。



## 6. 特別寄稿

“仙台市育児ヘルプ家庭訪問事業”について

加藤 由美氏



仙台市育児ヘルプ家庭訪問事業は、平成17年度よりスタートし、育児ヘルプ家庭訪問指導員として委嘱を受けました。育児についての支援が必要な家庭に対して、訪問による活動を行っています。専門指導員には、保健師、助産師、保育士、児童指導員等の資格を持つ人が委嘱を受けています。

訪問するご家庭は、育児不安、授乳による不安、児の先天性疾患など様々です。訪問するケース毎に、自分の知識不足やスキル不足を実感します。しかし、地区担当保健師と密に連絡をとり、連絡会では各専門指導員と共に支援内容について検討することが、支援の内容を深めることにつながっています。

家庭訪問

また、この仙台市育児ヘルプ家庭訪問事業は、同じ指導員が数度にわたって、訪問することが出来るので、児の成長、発達、母親の気持ちの変化などを知ることが出来ます。新生児訪問指導では知ることが出来なかった状況に関わることが出来、指導員の大きな喜びにもなっております。

今後も、支援を必要とする家庭に対して、自分のスキルアップをして訪問していきたいと考えております。



### 本部移転のお知らせ

皆様からのご支援・ご協力ありがとうございました。  
3月22日より、移転のため、電話・FAXが変わります。  
よろしくご確認下さい。  
なお、住所は後日機関紙にて報告があります。

電話 03 3866 3054

Fax 03 3866 3064



### 平成19年東北ブロック研修会のお知らせ

テーマ 「助産師が助産師らしく輝くために」 会費会員 8,000円

期日 19年9月28日(日) 29日(土)

会場 青森浅虫温泉 海扇閣

内容 ベテラン助産師に学ぶ分娩介助 院内助産院について  
USGの使い方 アロマセラピー等

問合せ先 (社)日本助産師会青森支部 支部長溝江好恵 017-742-7500 Fax017-742-7541



### 平成18年度理事会 &新年会にて

平成19年1月21日  
ホテルガーデン  
パレスにて  
理事会では、平成18年度事業報告、平成19年度役員改選について、19年度事業計画等について議論された。その後、和気あいあいとした交流の場となった。

理事会の後、一般会員の参加自由の新年会としました。役員を中心にお声がけをしております。来年は、もっと多くの方の参加をお待ちしています。



## 5. こんにちは! 助産院さん 加藤 道子氏

### 「ははこっこ助産院」という仕事



大崎市古川 大幡字原田 14-1  
TEL & FAX : 0229-23-2200  
携帯 : 090-4740-2810  
038kato@pop17.odn.ne.jp

「助産院を開きたい!!」という漠然とした夢を現実にしたのは、平成 14 年 10 月のことでした。もともと東京の病院勤務だった私が、地元である『大崎市古川』で助産婦として活動しようと思ったとき、なぜか自分の頭のなかには、この言葉しかありませんでした。

とはいえ、看護学校卒業後から、東京勤めだった自分には地元でのベースがなく、即開業という訳にもいかず、しばらくの間「わんや産婦人科」でお世話になり、勤めながら開業届けを出しました。



届けは出したものの、始めのうちは「おっぱいマッサージ」の依頼もなく、1 年間は泣かず飛ばずの状態、2 年目からは、市からの依頼で「新生児訪問」もはじめ、少しずつではありますが地域の様子もわかり始めたため、昨年(平成 18 年)の 3 月から分娩も取り扱うこととし、現在まで 3 組の家族のお手伝いをさせていただきました。

病院での各パートに分かれた仕事と違い、妊娠～出産～産褥をトータル的に捉える仕事の仕方は、まだまだ慣れず、戸惑うことの連続ですが、少しずつ自分らしい仕事、「ははこっこ助産院」という仕事ができるよう頑張っていきたいと思います。



とも子助産院にて

2007.1.8

今春、松木キネ先生が、とも子助産院を訪れたそうです。お元気でなによりです。暖かくなったら、また、研修会にもお出まし下さい。



アロマ・ルームも兼ねた診察室

## 2. 齋藤ついでみ氏瑞宝単光章受賞のお慶び



『祝辞』

(社)日本助産師会宮城県支部 支部長 新田双葉

齋藤ついでみ先生 おめでとうございます。

この度、(社)日本助産師会宮城県支部会員が、叙勲の栄を賜りましたことは、会員一同の誇りであり、喜びであります。先生は、常に積極的に助産師の力を、母子保健向上のために尽くされ、又私共後輩の指導にも当たられ、助産師の道を開いてくれました。感謝の気持ちでいっぱいです。

今後も益々お元気にご活躍されますように、お祈りいたします。

### 齋藤ついでみ先生から、感謝の言葉が届いております。

県委託研修会の貴重なお時間をさいて頂き、受章を祝う会を開いて頂きましたことに、厚くお礼申し上げます。

この度、新田双葉支部長さんはじめ、皆様の特段の計らいで、厚生労働功労により、平成 18 年度秋の叙勲、瑞宝単光章拝受の栄に浴し得ましたことは、今でも地域で『産婆さん』と呼ばれている私にとって、この上ない幸せを感じています。

新田双葉支部長さんを通して、受章の連絡を頂いてから、次々と新聞社、テレビ局が取材に訪れました。10 年一昔といいますが、60 年余りの、さまざまなことが思い出されました。

叙勲発令は 11 月 3 日づけでした。伝達式は 11 月 6 日、紅葉グランドホテル 銀河の間で、村井知事より、勲記勲章の伝達を受け、ご祝辞を頂きました。

拝謁の日は、11 月 10 日、12 時 10 分に厚生労働省に集合し、厚生労働大臣代理の事務官より祝辞を頂いて、皇居に入りました。午後 2 時 30 分ごろ、宮殿内の豊明殿に入り、天皇陛下に拝謁の栄誉と共に、「大丈夫ですか。お疲れになりませんでしたか」とお言葉まで賜り、感激の極みでございました。いずれも娘が同伴してくれました。

今日の私があるのは、会の先輩諸姉を始め、関係機関の先生方、地域の皆様の絶大なるご支援、ご協力があったからと、深く感謝しております。

今後は、この感激を胸に、栄誉に恥じないように、1 日 1 日を大切に過ごして行きたいと思っておりますので、これまで通り、よろしく願い申し上げ、お礼の言葉とさせていただきます。



照井海子先生と記念撮影



齋藤ついでみ先生をお祝いする会



## 4、産婆時代の助産師たち Part4 白石地区 佐藤 貞子氏

佐藤貞子氏は、2006年5月号 NO562『広報 しらいし』"HOT な白石の人"に掲載されました。佐藤貞子氏の業績と人柄がしのばれます。今回、白石市総務課のご許可を頂いて、機関紙にそのまま掲載しました。

# ホット Hotな 白石の人

50年の永きにわたり助産師  
活動に尽力されました

佐藤 貞子さん

—昨年(2023年)の11月17日、50年の永きにわたる助産師としての活動を評価され、厚生労働大臣の表彰を受けたのが、大平在住の佐藤貞子さんです。

半世紀の間に数え切れないほどの出産に立ち会い、これまでに白石市の人口の約半分にあたる2万人に及ぶ赤ちゃんを取り上げてきたと話す佐藤さん。出産時の介助から産前・産後の母子のケアまで、困難な務めを果たしてきた佐藤さんにお話を伺いました。

### ●なぜ助産師を志されたのですか？

若い時から将来は人のために役に立つ仕事に就きたいと思っていました。特に、出産や産前・産後のさまざまな悩みや問題に直面した母子のお手伝いをしたいという思いが強く、看護師や養護教諭なども経験しましたが、最終的に助産師を終生の仕事として選びました。

### ●活動されている中で苦労したことや、逆に良かったと感じることは何ですか。

劇的な場面に立ち会うことが多い仕事だけに苦労話は絶えません。長年この仕事を行ってきましたが、夜中に電話がかかってくるのは日常茶飯事で、睡眠時間が3時間の日が続いたこともしばしばありました。

乳幼児には大人の理屈は通用しません。その分ご家族の悩みは尽きず、困った状況に直面したお母さんなどはすぐるような思いで連絡してきます。それだけに、私も本気になって相



▲昭和50年ごろ、勤務先の朝倉医院にて同僚とともに(中央が佐藤さん)



訪問指導で訪れた家庭で赤ちゃんを抱く佐藤さん

1月22日理事会にて



談に応じてきましたし、問題が解消されたときの喜びもひとしおでした。少ない睡眠時間の生活を送る中で健康を保ち、長い間この仕事を続けることができたのは、やはりこういった情熱と使命感、そして充実感があったからであり、また、亡き朝倉松雄先生、そして朝倉病院で一緒に働いた皆さんのおかげです。本当にありがとうございました。

### ●後輩の助産師さんの方や市民の皆さんへのメッセージをどうぞ！

出産の立ち会いは非常に感動的で、元気に泣く赤ちゃんを取り上げたときというのはとてもうれしいものです。同時に、最近増加傾向にあるマタニティーブルー(産後鬱)の問題など、デリケートな側面を多く持った仕事ですので、現在助産師として活躍されている方には、こういった問題に十分配慮して仕事に臨んでいただければと思います。

私はこれまで、助産師として数多くのご家族のお手伝いをしてきましたが、同時に私自身も多くのご家族に支えられてきたと感じています。これらの皆様に深く感謝しますとともに、子育てに悩む多くのお母さんたちを救えるよう、後輩の助産師の皆さん、頑張ってください。



▲厚生労働大臣よりの表彰状を手に